

令和4年度 創形美術学校
学校関係者評価報告書

実施日：令和5年6月23日

本物にふれる 本当の力をつける



目 次

1	1. 学校の教育目標
	2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画
	3. 評価項目の達成及び取組状況
	(1) 教育理念・目標
2	(2) 学校運営
	(3) 教育活動
3	(4) 学修成果
4	(5) 学生支援
	(6) 教育環境
5	(7) 学生受入募集
	(8) 財務
6	(9) 法令遵守
	(10) 社会貢献・地域貢献
7	(11) 国際交流
	4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果
	(1) 教育評価
	(2) 財務評価
	(3) 社会貢献・地域貢献
	(4) 自己評価
	(5) 学校関係者評価
8	5. 学校関係者評価委員の評価結果について

1. 学校の教育目標

本校は広く美術造形・デザイン全般に関する高度な学理と技能の教授、あわせてグローバルな社会に対応する幅広い教養を身に付けた人格の形成を図り、現代社会に貢献する優れたクリエイターを育成する。それによって日本文化の発展に貢献することを目的とする。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- (1) 入学応募、入学試験の改革
- (2) 事業計画の改訂
- (3) 教育方針の見直し
- (4) 就職支援の強化。就職内定率向上を図る。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

【評価項目】

適切：4／ほぼ適切：3／やや不適切：2／不適切：1

○ 学校の理念・教育目標・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④	3	2	1
○ 学校の特色は示されているか	④	3	2	1
○ 学校の将来構想を抱いているか	④	3	2	1
○ 学校の理念・教育目標・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に 周知されているか	④	3	2	1
○ 各学科の教育目標、育成人材像が方向づけられているか	④	3	2	1

〈課題〉

基礎課程においてのカリキュラムの見直しが必要。

学生自ら掲げた目標へ到達できるよう自主性の育成強化。

コロナ後を見据え、カリキュラムの改変、および先端メディア授業などの充実。

キャリア教育の強化。

〈今後の改善方策〉

基礎課程カリキュラムの改革を図る。

〈特記事項〉

教育方針を見直し、「三つの5つ」を改め、本校の特徴を明確化。

次年度より基礎カリキュラムをファインアート科とビジュアルデザイン科に分けて実施。

(2) 学校運営

【評価項目】

適切:4/ほぼ適切:3/やや不適切:2/不適切:1

- | | | | | |
|-------------------------------------|---|---|---|---|
| ○ 運営方針に沿った事業計画が策定されているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 運営組織や意思決定機能は、明確化されているか、有効に機能しているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 人事、給与に関する規程等は整備されているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 意思決定システムは整備されているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか | 4 | ③ | 2 | 1 |

〈課題〉

教育活動等に関する情報公開をさらに強化する。

入り口の強化=入学者数の増加を図り、出口の強化=卒業後の内定率のアップを図る。

〈今後の改善方策〉

アトリエの効率化を推進。

〈特記事項〉

中長期事業計画の明確化。BCPの策定。

次年度より「絵画造形専攻」「アニメーション&コミック専攻」を「絵画専攻」「メディアデザイン専攻」に改める。

新型コロナウイルス陽性者、濃厚接触者へのサポートを積極的に関与し、感染症対策を徹底。

コロナ禍で中止されていた文化祭、研修旅行など行事の再開。

(3) 教育活動

【評価項目】

適切:4/ほぼ適切:3/やや不適切:2/不適切:1

- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ○ 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか | 4 | ③ | 2 | 1 |
| ○ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件が体系的な位置づけにあるか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか | ④ | 3 | 2 | 1 |

〈課題〉

キャリア教育、就職活動学生へのサポートの前倒しが必要。

学外の活動を通して「人間力」育成の強化が必要。

習得した知識や技術を使い、社会へ貢献していく意識を持たせる必要がある。

〈今後の改善方策〉

就職状況の早期化に合わせ、キャリア教育の前倒しを図り、キャリア指導を更に強化する。

〈特記事項〉

次年度より専任教員の増員を決定。キャリア指導の強化を図る。

新規就職講座、フリーランス講座を初めとしてキャリア講座を増設。

個別就職相談をスマホからの予約を可能とした。

就職内定者の情報収集と、内定までに取り組んだ内容を公開。

(4) 学修成果

【評価項目】

適切:4 / ほぼ適切:3 / やや不適切:2 / 不適切:1

○ 就職率を向上させるための施策は図られているか	④	3	2	1
○ 学習成果の可視化が図られているか	④	3	2	1
○ 退学率を低減するための施策は図られているか	④	3	2	1
○ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④	3	2	1
○ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	④	3	2	1

〈課題〉

1年次より社会や就職に対する意識向上を図る必要がある。

職に就くことの意義を認識させ、就職活動を早期から意識、行動させる指導、強化が必要。

〈今後の改善方策〉

卒業生の近況情報の把握。

卒業生との交流の場の再開。

〈特記事項〉

サポートが必要な欠席気味の学生の情報共有、および早期面談を実施。

(5) 学生支援

【評価項目】

適切:4/ほぼ適切:3/やや不適切:2/不適切:1

○ 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
○ 学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
○ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1
○ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④	3	2	1
○ 課外活動に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
○ 学生の生活環境への支援は行われているか	④	3	2	1
○ 保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1
○ 卒業生への支援体制はあるか	④	3	2	1
○ 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	③	2	1

〈課題〉

メンタルヘルスに問題を抱える学生への対応強化と保護者との連携の強化。

〈今後の改善方策〉

支援が必要な学生に対して教員の増加を図り、学生個々に担当者を明確にし、より手厚いサポートを行う。業界、外部関係者と連携を図りながら学生支援、就職支援を更に強化していく。

〈特記事項〉

就職相談室をリニューアル。就職相談担当者による個別相談を強化。

「学生便覧」の全面改訂。

コロナ禍により途絶えていた学生会活動行事の再開に際し、アドバイザーを立て、支援、サポートを実施。

(6) 教育環境

【評価項目】

適切:4/ほぼ適切:3/やや不適切:2/不適切:1

○ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	③	2	1
○ 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④	3	2	1
○ 防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1

〈課題〉

防災対策の強化。備蓄品の充実が求められる。

インターンシップ先の拡充。求人先会社との連携の強化。

〈今後の改善方策〉

大型修繕に備えて綿密な計画立案。

限られたアトリエの効率的な使用。

PC、及び周辺機器など、最新機器の更新。

感染症対策など衛生面の継続。

(7) 学生受入募集

【評価項目】

適切:4 / ほぼ適切:3 / やや不適切:2 / 不適切:1

- | | | | | |
|-------------------------------|---|---|---|---|
| ○ 学生募集活動は、適正に行われているか | 4 | ③ | 2 | 1 |
| ○ 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 入学選考の時期、基準、方法は適正に行われているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 学納金は妥当なものとなっているか | ④ | 3 | 2 | 1 |

〈課題〉

コロナ禍の影響を受け、地方からの入学者、及び留学生応募の鈍化。

また、入学試験のレベル強化による応募者の減少。

高校生の進路先決定時期が早まる。学生募集活動時期の遅れが見られる。

〈今後の改善方策〉

学校訪問、体験講座の強化。

PC、及び周辺機器の充実。レンタル料金の価格見直し。

奨学金、支援金制度の拡充。

日本学校を含む指定校推薦の拡充。

個別相談会の拡充。

〈特記事項〉

本校の特徴と育成方針の見直しと明文化を図る。

留学生受け入れに関し、日本語学校との更なる連携強化を図る。

(8) 財務

【評価項目】

適切:4 / ほぼ適切:3 / やや不適切:2 / 不適切:1

- | | | | | |
|-----------------------------|---|---|---|---|
| ○ 中、長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか | 4 | ③ | 2 | 1 |
| ○ 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 財務について会計監査が適正に行われているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 財務情報公開の体制整備はできているか | ④ | 3 | 2 | 1 |

〈課題〉

本課程の定員数充足を図る。

〈今後の改善方策〉

物価上昇による経費増加に対し、経費削減、省エネの強化が必要。

広報戦略の見直し、高校渉外を充実させ、広報費の削減を図る。

〈特記事項〉

本課程の応募者数増加を目標とし、2024年度入学の出願方法、入学試験を改訂する。

(9) 法令遵守

【評価項目】

適切:4/ほぼ適切:3/やや不適切:2/不適切:1

- | | | | | |
|---------------------------------|---|---|---|---|
| ○ 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 学校評価の実施と問題点の改善を行っているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 学校評価結果を公開しているか | ④ | 3 | 2 | 1 |

〈課題〉

学校評価においては、今後第三者評価による点検を推進することが課題。

〈今後の改善方策〉

第三者評価による点検を図る。

〈特記事項〉

特に無し。

(10) 社会貢献・地域貢献

【評価項目】

適切:4/ほぼ適切:3/やや不適切:2/不適切:1

- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ○ 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか | 4 | ③ | 2 | 1 |

〈課題〉

コロナ後に向けて、社会貢献活動・地域貢献活動、公開講座などの再開。

〈今後の改善方策〉

豊島区アート・カルチャー特命学生大使の活動のサポート強化を図る。

社会人向け公開講座として豊島区生涯学習Open Schoolの再開を図る。

〈特記事項〉

社会貢献、地域貢献の趣旨に則った学生作品の展示機会の拡充。多くの学生が参加する。

また、SDGsをテーマとしたイベントへ多くの学生ボランティアが参加した。

日本デザイン団体協議会(D-8)との連携を強化。学生の豊島区外へも活動の幅を広げる。

(11) 国際交流

【評価項目】

適切:4/ほぼ適切:3/やや不適切:2/不適切:1

- | | | | | |
|---------------------------------------|---|---|---|---|
| ○ 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 留学生の受入れ・派遣・在籍管理等において適切な手続き等がとられているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 留学生の学習・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか | 4 | ③ | 2 | 1 |

〈課題〉

コロナ禍により、海外アーティストの招聘が実施出来ず。
また学生の意識に国際交流の重要性が薄れる。

〈今後の改善方策〉

海外アーティスト招聘の充実。

〈特記事項〉

シテ・デ・ザール留学制度の再開。
メキシコベラクルス州立大学、国際交流課部長の来校。次年度の交換留学生制度の再開。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

(1) 教育評価

創形美術学校は美術・デザインの造形教育アカデミーとして数多くの優れた人材を輩出してきた。昨年度まで課題とされていたキャリア指導において、在学中の就職内定率の大幅な向上が示すように、環境整備やカリキュラムを含めた改善は目を見張るものがある。またコロナ禍においては感染対策を徹底しつつ、教育の質を落とすことなく高いレベルを維持し、更にコロナ後の時代を見据え、自ら課題解決の判断や構想に取り組む人材育成の充実と研鑽を図っている事は評価できる。しかし現状に甘んずることなく、来る本格的なAI時代到来までも見据え、常に社会の変化に対し、カリキュラムの検証と見直しを行い続ける必要がある。

それは学校運営に対しても同様であり、常に将来を見据え、DX化の推進を図る必要がある。

一方、新型コロナウイルスの5類への移行に伴い、社会、経済の再開が見込まれる今、社会人に向けたリカレント教育、リスクリング教育の更なる充実を図り、本科、研究科とのバランスも考慮し、より効率的なアトリエ運営にも取り組んでいかなければならない。

(2) 財務評価

令和5年度の学生募集において研究科を主として留学生の入学がコロナ以前の水準に回復した点は評価できるものの、1年生入学において定員数を割り込んでいる事は、依然、今後の学生募集などに課題を残している。すでに次年度に向けた対策を実施していることは評価するものの、時代の変化に合わせ、継続的に見直していく必要がある。また、財務基盤は余裕あるものとは言えないが、黒字経営の続く今のうちに大規模改修の計画を推し進める必要を検討し、更にITに強い人材育成の為にも最新のIT環境の整備にも力を注ぐ必要がある。

(3) 社会貢献・地域貢献

豊島区政90周年を迎えた令和4年度は、コロナにより中止されていたイベントが徐々に再開されつつある年であり、本校在校生も、ハレザ池袋での作品展示など多くの学生が参加した。一方、東急ハンズやGUショップなど、今まで本校と連携していた企業が閉店するなど、予測範囲を超えた変化に戸惑い、対応を迫られた点は残念である。しかし地道に多くの企業や関係団体と築き上げていたことにより、学生達が体験する社会貢献や地域貢献の場が奪われなかった事は高く評価する。特に継続的に連携してきた日本デザイン団体協議会(D-8)において、豊島区のイベントに留まらず、学生の活動の場が広がった点は、将来のデザイン業界を担う学生にとって、デザイン教育の面でも大きな成果があったと考える。

(4) 自己評価

コロナ禍の中、学内感染が無く、クラスターを招かなかつた事や、陽性者、濃厚接触者に対し、毎日の連絡を怠らなかつた点は大変評価できる。何より世の中の求人倍率の上昇以上に、就職内定率が大幅に改善された点は、全教職員が一体となって努力してきた結果だとみる。

今後も少人数制の長所を活かし、学生の個性を伸ばし、より際立った特徴を持ち、常に社会から必要とされる人材育成の継続を求めたい。

(5) 学校関係者評価

課題だった就職内定率が大幅に向上したことは評価できる。インターンシップの斡旋や卒業生の仕事の展示など教職員が手分けして学生の就職意識に働きかけ、社会との繋がりを見えるようにした効果が現れたと感じる。就職講座の他にフリーランス講座などを開設した事により、作家活動を志す学生にも仕事の意識を持たせる事が出来、舞台美術やアーティストのアシスタントなどに就職した学生も居て、後に続く人達にとって身近な卒業後のモデルケースの一つとなった。ただ、まだファインアート科など仕事を意識する時期が遅い。作家として卒業後にすぐに経済的に自立することは難しいのだから、早い時期から作家活動の副業も含めてどのように働いていくかという意識付けを進めていく必要がある。

一方、社会貢献や地域貢献など産学連携は長い間続けてきた活動の成果がようやく認知されるようになった。高校の先生方からも本校が社会との接点をしっかり持っている事に高い評価を得ている。制作された作品も大変レベルが高い。美大との差別化を考慮し、アート・デザインの専門学校ならではの高い実践力のある活動として、社会への貢献がますます発展していく事を期待する。それが学生達の仕事への意識付けにも繋がる。活動の成果は学外に認知されつつあるのだが、更に広く知ってもらう為に例えば活動を記した冊子の制作や配信など、今後は広報活動を強化する事を検討して頂きたい。

もう一つ、今後の国際交流に関しても検討して頂きたい。国際交流が再開したことは大変喜ばしい事である。しかし海外留学希望者が減少傾向にある事は課題である。在校生が海外留学を知る機会を更に増やす必要がある。例えばSNSやネット掲示板などを活用する事や参加しやすい短期留学なども検討して頂きたい。令和4年度全体としては、多少の課題はあるものの大変良い状態にあると評価する。今後も精進して更なる発展を期待する。

5. 学校関係者評価委員の評価結果について

学校法人高澤学園創形美術学校の令和4年度自己点検・自己評価の結果に基づいて学校関係者評価を実施した結果、上記報告書は、創形美術学校関係者評価委員として、妥当な評価であることを確認し、認めます。

創形美術学校評価委員 令和5年6月23日

デザイン事務所 代表取締役 飯田淳

豊島区「国際アート・カルチャー特命大使」 田中北斗